



令和5年度 市川中2年グランドデザイン



学年経営目標

お互いを敬い、目標に向かって
主体的に努力し成長し合う生徒・集団の育成

今年度の重点

確かな学力の育成

- 自ら学ぶ姿勢を育て、学ぶ力を身につけ、将来を見据えた進路実現のために前向きに取り組む集団の育成
- ・見通しと振り返りを通して生徒が「わかる・力のつく」授業を計画し実践をめざす。
- ・自主学習ノート等への取り組みを通して家庭学習の習慣化を図る。
- ・テストの取り組み表を活用し、見通しを持って計画的に学習に取り組むことができるように指導を工夫する。
- ・放課後学習会などを活用し、個に応じた指導を図る。
- ・卒業後の進路についてさらに学びを深め、自分のどんな力を伸ばすべきかを考える機会を作る。



今年度の重点取組及び分掌

- ・目標と自己の振り返りができる授業を毎日実践し、生徒が「わかった！力がついた！」と感じられる授業づくりを目指す。(全)
- ・生徒のつぶやきを拾う授業を心掛ける。(全)
- ・自主学習を回収し、生徒の学習状況を確認する。(全)
- ・定期テストへの取り組みの事前事後指導、取組過程を通して成果と課題を洗い出し、改善に向けて努力できるように指導する。(全)
- ・テスト前放課後学習会を実施し、自分にあった学び方を試行錯誤する機会を持つ。(全)
- ・卒業後の進路について学びを深め、自分を活かすために何をすべきかを考える進路学習を行う。(全)
- ・タブレットを活用した授業の工夫を提案する。(松野)

豊かな心の育成

- お互いの良さや違いを認め合い、みんなで高め合うことができる集団の育成
- ・一人ひとりの居場所のある学級・学年づくりを図る。
- ・できるだけ多くの活躍の場面を作り、互いの頑張りを認め合えるような場面づくりを図る。
- ・各種行事、諸活動への取組を通して、学級・学年・学校文化を創造し、誇りを持って生活できるような集団づくりを図る。
- ・学年職員全員で道徳の授業を行い、様々なことを自分事として捉え、他者の意見を聴くことで多面的多角的に考えられる授業づくりを図る。
- ・生徒一人ひとりとの会話や生活記録ノートを通して、生徒理解を図る。また、生徒の様子をシェアし同歩調で指導を図る。
- ・いじめを絶対に許さないという集団作りを図る。



- ・一人一役を基本とした、係・当番活動を工夫する。(担任)
- ・行事などを通して、お互いの良いところを認め合い、素直に気持ちを表現する活動を行う。(塩澤)
- ・自分の良さを見つける活動を行う。(全)
- ・道徳の授業を通して、自分と向き合い、他者を理解する力を伸ばす指導をする。(全)
- ・二者懇談、生活記録ノートを活用して、生徒との対話を行い、生徒理解を深める。(担任)
- ・道徳などを通して、いじめを含めた他者への攻撃が、どのような結果につながるかを考えられる指導をする。(全)
- ・他者理解を深め、それぞれの個性を認め合えるよう、インクルーシブ教育を進める。(渡辺)

健康・安全

- 基本的な生活習慣の確立を図り、安心して生活できる空間づくり・美しい環境づくりに取り組む集団の育成
- ・優先させるべきことを明確にして、時間の管理意識を持って生活するように指導し、生活にメリハリを持たせる指導をする。
- ・心身ともに健康な生活をおくれるよう、養護教諭と連携して指導する。
- ・情報リテラシーを学ぶ機会を設け、ネット社会やSNSの特色、適切な活用を学ぶ機会をつくり、有効活用できるよう模索する。
- ・きまりや心得について学ぶ機会を設け、自らの立ち振る舞いを振り返る指導を図る。



- ・学校生活の優先事項を明確にする。(担任)
- ・毎日の清掃活動を丁寧に行い、教室環境の整備を行う。(担任)
- ・環境を快適に保つための個人の工夫を指導する。(全)
- ・花を絶やさない園芸活動を行う。(塩澤)
- ・情報リテラシーについて取り上げる授業を実施する。(松野)
- ・SNS利用宣言の周知、徹底を図る。(清水)
- ・きまりや心得について学び、ルールやマナーについて考える授業を行う。(全)

地域との連携

- 地域、家庭との連携を大切にし、生徒のよりよい成長の支援
- ・学級通信、学年通信を適宜発行し、学校の様子を発信する。
- ・個々のよりよい成長のために、保護者と連携し学校の様子を伝える。
- ・みさと学とのつながりを意識し、職場体験を通して、地元の企業や働く人々の様子に触れ、自分が育つ地域の特色を学ぶ。
- ・地域の一員として、社会参画を促す指導をする。



- ・学級通信を発行し、日常の様子を保護者に伝える。(担任)
- ・学年通信を発行し、学年の様子や予定を保護者に伝える。(清水)
- ・職場体験学習を通して、自分たちが住む地域の新たな一面を発見できる活動を行う。(全)
- ・教科学習を含め、地域の人材を活用した学習活動を企画する。(全)



令和5年度 市川中2年グランドデザイン



学年経営目標

お互いを敬い、目標に向かって
主体的に努力し成長し合う生徒・集団の育成

今年度の重点

確かな学力の育成

- 自ら学ぶ姿勢を育て、学ぶ力を身につけ、将来を見据えた進路実現のために前向きに取り組む集団の育成
- ・見通しと振り返りを通して生徒が「わかる・力のつく」授業を計画し実践をめざす。
- ・自主学習ノート等への取り組みを通して家庭学習の習慣化を図る。
- ・テストの取り組み表を活用し、見通しを持って計画的に学習に取り組むことができるように指導を工夫する。
- ・放課後学習会などを活用し、個に応じた指導を図る。
- ・卒業後の進路についてさらに学びを深め、自分のどんな力を伸ばすべきかを考える機会を作る。



今年度の振り返り

- ・目標と自己の振り返りができる授業を毎日実践し、生徒が「わかった！力がついた！」と感じられる授業づくりを目指す。(全)
- ・生徒のつぶやきを拾う授業を心掛ける。(全)
- ・自主学習を回収し、生徒の学習状況を確認する。(全)
- ・定期テストへの取り組みの事前事後指導、取組過程を通して成果と課題を洗い出し、改善に向けて努力できるように指導する。(全)
- ・テスト前放課後学習会を実施し、自分にあった学び方を試行錯誤する機会を持つ。(全)
- ・卒業後の進路について学びを深め、自分を活かすために何をすべきかを考える進路学習を行う。(全)
- ・タブレットを活用した授業の工夫を提案する。(松野)

豊かな心の育成

- お互いの良さや違いを認め合い、みんなで高め合うことができる集団の育成
- ・一人ひとりの居場所のある学級・学年づくりを図る。
- ・できるだけ多くの活躍の場面を作り、互いの頑張りを認め合えるような場面づくりを図る。
- ・各種行事、諸活動への取組を通して、学級・学年・学校文化を創造し、誇りを持って生活できるような集団づくりを図る。
- ・学年職員全員で道徳の授業を行い、様々なことを自分事として捉え、他者の意見を聴くことで多面的多角的に考えられる授業づくりを図る。
- ・生徒一人ひとりとの会話や生活記録ノートを通して、生徒理解を図る。また、生徒の様子をシェアし同歩調で指導を図る。
- ・いじめを絶対に許さないという集団作りを図る。



- ・一人一役を基本とした、係・当番活動を工夫する。(担任)
- ・行事などを通して、お互いの良いところを認め合い、素直に気持ちを表現する活動を行う。(塩澤)
- ・自分の良さを見つける活動を行う。(全)
- ・道徳の授業を通して、自分と向き合い、他者を理解する力を伸ばす指導をする。(全)
- ・二者懇談、生活記録ノートを活用して、生徒との対話を行い、生徒理解を深める。(担任)
- ・道徳などを通して、いじめを含めた他者への攻撃が、どのような結果につながるかを考えられる指導をする。(全)
- ・他者理解を深め、それぞれの個性を認め合えるよう、インクルーシブ教育を進める。(渡辺)

健康・安全

- 基本的生活習慣の確立を図り、安心して生活できる空間づくり・美しい環境づくりに取り組む集団の育成
- ・優先させるべきことを明確にして、時間の管理意識を持って生活するように指導し、生活にメリハリを持たせる指導をする。
- ・心身ともに健康な生活をおくれるよう、養護教諭と連携して指導する。
- ・情報リテラシーを学ぶ機会を設け、ネット社会やSNSの特色、適切な活用を学ぶ機会をつくり、有効活用できるよう模索する。
- ・きまりや心得について学ぶ機会を設け、自らの立ち振る舞いを振り返る指導を図る。



- ・学校生活の優先事項を明確にする。(担任)
- ・毎日の清掃活動を丁寧に行い、教室環境の整備を行う。(担任)
- ・環境を快適に保つための個人の工夫を指導する。(全)
- ・花を絶やさない園芸活動を行う。(塩澤)
- ・情報リテラシーについて取り上げる授業を実施する。(松野)
- ・SNS利用宣言の周知、徹底を図る。(清水)
- ・きまりや心得について学び、ルールやマナーについて考える授業を行う。(全)

地域との連携

- 地域、家庭との連携を大切にし、生徒のよりよい成長の支援
- ・学級通信、学年通信を適宜発行し、学校の様子を発信する。
- ・個々のよりよい成長のために、保護者と連携し学校の様子を伝える。
- ・みさと学とのつながりを意識し、職場体験を通して、地元の企業や働く人々の様子に触れ、自分が育つ地域の特色を学ぶ。
- ・地域の一員として、社会参画を促す指導をする。



- ・学級通信を発行し、日常の様子を保護者に伝える。(担任)
- ・学年通信を発行し、学年の様子や予定を保護者に伝える。(清水)
- ・職場体験学習を通して、自分たちが住む地域の新たな一面を発見できる活動を行う。(全)
- ・教科学習を含め、地域の人材を活用した学習活動を企画する。(全)



令和4年度 市川中1年グランドデザイン



学年経営目標

可能性を信じ、自他を大切にし、主体的に努力し
互いに成長し合う生徒・集団の育成

今年度の重点

確かな学力の育成

- 自ら学ぶ姿勢を育て、学ぶ力を身につけ、将来を見据えた進路実現のために前向きに取り組む集団の育成
- ・学び合い、成長し合うために必要な授業規律の確立を図る。
- ・自主学習ノート等への取り組みを通して家庭学習の習慣化を図る。
- ・テストの取り組み表を活用し、学習のPDCAサイクルを身につける。
- ・放課後学習会などを活用し、個に応じた指導を図る。
- ・自分を知ることで、自らの生き方や将来について意識を高める指導を図る。



今年度の振り返り

- ・ペアワークやグループ活動を活用し、話し合い活動や教え合う活動を行うことができた。
- ・ICTを活用し主体的に学べるように工夫することができた。
- ・授業規律を確立するために、教科担当内で連携し、全職員共通理解の下、指導を徹底した。
- ・自主学習への取組を継続して行い、家庭学習の習慣化を図った。
- ・学力向上キャラバンに参加し、学ぶことについて考え、学び方を知る機会とすることができた。
- ・テスト前学習会では集中した雰囲気の中で学習することができた。また、積極的に質問する生徒も多く見られた。
- ・テスト取組表を活用し、平日2時間以上、休日4時間以上を目標として計画を立て、学習を進めた。

豊かな心の育成

- お互いの良さや違いを認め合い、みんなで高め合うことができる集団の育成
- ・一人ひとりの居場所のある学級・学年づくりを図る。
- ・できるだけ多くの活躍の場面を作り、互いの頑張りを認め合えるような場面づくりを図る。
- ・各種行事、諸活動への取組を通して、学級・学年・学校文化を創造し、誇りを持って生活できるような集団づくりを図る。
- ・学年職員全員で道徳の授業を行い、様々なことを自分事として捉え、他者の意見を聴くことで多面的多角的に考えられる授業づくりを図る。
- ・生徒一人ひとりとの会話や生活記録ノートを通して、生徒理解を図る。また、生徒の様子をシェアし同歩調で指導を図る。
- ・いじめを絶対に許さないという集団作りを図る。



- ・道徳の授業を学年職員全員で実施した。多様なテーマの基で考え、意見を交わす活動を積極的に取り入れ、他者との関わりの中で心の育成を図ることができた。また、生徒の生活習慣の実態を考える機会とするために、養護教諭を講師として招き授業を行い、睡眠について学びを深めた。
- ・よりよい学校生活を送るために学年執行部を中心に学年の課題点をピックアップし、その改善に重点的に取り組む活動を行い、学校生活のレベルアップを図ることができた。
- ・行事に向けて、学年執行部や系列代表をはじめとしたリーダーを中心に生徒主体で見通しを持った活動を展開することができた。
- ・日常の何気ない会話ややりとり帳を通したコミュニケーション、定期的に二者懇談を行うことで生徒との対話を深めることができた。学年職員全員で生徒理解を深めた。

健康・安全

- 基本的生活習慣の確立を図り、安心して生活できる空間づくり・美しい環境づくりに取り組む集団の育成
- ・身の回りの整理整頓の方法や、家庭での時間の使い方を考えるなど、自立のために必要なスキルを高めるよう指導を図る。
- ・適切な感染症対策がとれるよう、養護教諭と連携して指導する。
- ・情報リテラシーを学ぶ機会を設け、ネット社会やSNSの特色、適切な活用を学ぶ機会をつくる。
- ・きまりや心得について学ぶ機会を設け、自らの立ち振る舞いを振り返る指導を図る。



- ・マスクの着用、健康観察、給食時の黙食、手指消毒等、感染症対策に留意した生活を意識して送ることができた。
- ・SNSの安全な利用について生徒会本部による「市川中SNS利用宣言」を理解し、活用するよう指導できた。「教育講演会」でも情報モラルについての学習会を実施することができた。
- ・清掃活動では教師と生徒が共に環境美化に努め、班長を中心に丁寧な掃除に取り組むよう指導した。
- ・生活委員を中心に定期的に身だしなみをチェックし、きまりや心得について理解を深めることができた。

地域との連携

- 地域、家庭との連携を大切にし、生徒のよりよい成長の支援
- ・学級通信、学年通信を適宜発行し、学校の様子を発信する。
- ・個々のよりよい成長のために、保護者と連携し学校の様子を伝える。
- ・みさと学とのつながりを意識し、職場体験を通して、地元の企業や働く人々の様子に触れ、自分が育つ地域の特色を学ぶ。
- ・地域の一員として、社会参画を促す指導をする。



- ・コロナ禍であったが、できる範囲で学校での生徒の姿を見てもらえることが出来た。2週間に一度学年通信を発行して学校での様子や2週間分の予定を伝えることができた。
- ・校外学習や青洲高校見学を通して自分たちの地域の新たな一面を発見することができた。
- ・小学校6年生を対象とした「未来訪問」を企画、運営した。精一杯の力を発揮し、先輩になることを実感し、後輩のことを考えて行動することの大切さに気づく機会となった。